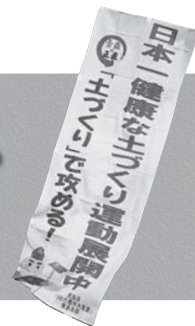


稲わら活用で土づくりを 稲わらすき込み実演会



小型トラクターにも装着できるプラソイラー



プラウを使ったすき込み作業

つがる市稲わら有効活用推進協議会（工藤三千輝会長）と西北地域県民局地域農林水産部は10月11日、柏地区の工藤芳久さんの水田で稲わらすき込み実演会を開催し、地力増進とわら焼き防止を目指し、すき込み面積の拡大を呼び掛けました。

実演会には農家ら約30人が参加。工藤会長が「すき込みは稲わらを土づくりに活用する有効な方法。面積拡大に努めていきましょう」とあいさつした後、農業普及振興室分室と市担当者が、すき込みの効果や方法、機械導入への支援事業などについて説明をしました。

その後、混層耕する小型の「プラソイラー」と、土を反転させる「プラウ」を装着した2台のトラクターを使ったすき込みの実演が行われ、参加した農家らは真剣な表情で、担当者に性能などを詳しく質問していました。



すき込みによる土づくりを呼び掛ける工藤会長

稲わらすき込みで土づくり

稲わらは大切な有機質資源です。毎年すき込みすると堆肥と同等の効果が期待できます。



すき込み方法

- ① すき込み時期は早いほど良い
- ② 細断した稲わらをほ場内に均一に散らす。山盛りにせず平らになるように敷く
- ③ 稲わら腐熟促進剤（石灰窒素等）を散布する
- ④ プラウやロータリーですき込む

※詳細については、西北地域県民局地域農林水産部農業普及振興室つがる分室（電話42-2222）へお問い合わせください。

すき込み田の管理

●基肥窒素量

稲わらを分解する土壌微生物が窒素を使うため、はじめは5～10%増とし、地力が高まったら減らしていく。基肥窒素量のめやすは次のとおり。

すき込み年数	基肥窒素量のめやす
連用2～3年目まで	慣行より5～10%増やす
連用3～4年目	慣行施用量と同量
連用4～5年目以降	慣行より5～10%減らす

●代かき時の注意

水深を浅めにして稲わらを土中に埋め込む。

●根腐れ対策

気象条件に応じた適正な水管理、中干し、溝切りを行い、土に酸素を供給する。

ゴール目指して全力疾走 地球村一周マラソン大会



号砲とともにスタートする選手たち



5キロの部で優勝した一戸雅之さん



選手宣誓をするつがる市の藤本さん一家



走った後は栄養たっぷりの豚汁を



沿道の声援を受け力走

つがる地球村で10月9日、「第7回地球村一周マラソン大会」が開催され、紅葉し始めた自然の中で市内外から集まった354人のランナーたちが健脚を競いました。大会は、距離や年齢別に14部門に分かれて行われ、福島市長のピストルの号砲でスタート。参加者は晴天のもと、心地よい汗を流しながら、ゴールを目指しました。

また、大会終了後には豚汁が振る舞われたほか、お楽しみ抽選会も行われ、参加者は楽しい一日を過ごしました。

大会結果

10km

高校・一般 (39歳以下) 男子

順位	氏名	住所	タイム
1	市川 友昭	五所川原市	37分42秒
2	吉田 匡克	つがる市	38分24秒
3	阿部 丈亮	深浦町	38分47秒

一般 (40歳以上) 男子

1	斉藤 大祐	弘前市	35分47秒
2	奈良 道明	弘前市	37分00秒
3	阿部 孝心	黒石市	38分12秒

高校・一般 (39歳以下) 女子

1	清水 友美	青森市	50分02秒
2	木村 幸子	五所川原市	50分11秒

一般 (40歳以上) 女子

1	伊藤 朝美	五所川原市	41分46秒
2	長谷川 雅子	青森市	43分40秒
3	大田 久美子	青森市	45分14秒

5km

高校・一般 (39歳以下) 男子

順位	氏名	住所	タイム
1	金野 統	つがる市	16分13秒
2	花岡 樹	つがる市	16分17秒
3	佐々木 祐真	つがる市	16分29秒

一般 (40歳以上) 男子

1	一戸 雅之	つがる市	15分34秒
2	小山内 健一	弘前市	16分17秒
3	山崎 貴穂	弘前市	17分00秒

高校・一般 (39歳以下) 女子

1	佐々木 結乃	五所川原市	18分10秒
2	大久保 玲美	五所川原市	19分08秒
3	田村 真波	五所川原市	19分23秒

一般 (40歳以上) 女子

1	藤田 綾子	青森市	18分16秒
2	川越 七重	つがる市	18分36秒
3	小林 明子	藤枝市	21分22秒

3km

中学校 男子

順位	氏名	住所	タイム
1	小野 雄大	弘前市	09分32秒
2	濱本 登生	藤崎町	09分36秒
3	花田 裕司	弘前市	10分12秒

中学校 女子

1	相坂 美空	弘前市	11分16秒
2	高橋 葵	五所川原市	11分26秒
3	三上 葵	五所川原市	12分41秒

小学校4年生以上 男子

1	宮崎 翔	鎌ヶ沢町	11分35秒
2	関根 広大	つがる市	12分49秒
3	宮崎 陸	鎌ヶ沢町	12分56秒

小学校4年生以上 女子

1	三上 怜	五所川原市	12分33秒
2	楠美 はるか	五所川原市	14分12秒
3	山上 日登美	藤崎町	16分40秒

一般男子 (60歳以上)

1	高杉 昭吾	板柳町	12分03秒
2	中村 文幸	青森市	12分15秒
3	船橋 義勝	平内町	12分37秒



アイガモ農法田で喜びの収穫

瑞穂小学校（一戸瑞校長）の5年生36人が9月29日、学校田（2.5㌥）でアイガモ農法によって生育した稲を刈り取り、収穫の喜びを味わいました。

児童らは、ごしょつがる農協「おいしいごはんを作る会」（浜山敏彦会長）の指導のもと、5月に田植えをした後、アイガモを放鳥し観察を続けてきました。

稲刈りでは、同会の高橋金義さんが稲刈りの手順を説明。児童らは慣れない鎌の使い方に苦戦しながら、黄金色に実った稲を刈り取り、天日干しにしました。山谷梨於名さんは「稲刈りをしてみて、ご飯を食べるときお米を残さないようにしようと思った」と話していました。



たわわに実った稲を刈り取る児童ら



りんご園を見回るパトロール隊

許さない！りんご盗難

りんごを盗難被害から守ろうと「つがる市りんごパトロール隊」出動式が10月7日、市役所前で行われ、つがる警察署員ら関係者約60人が出席しました。市防犯協会長(福島市長)、鷹山誠つがる警察署長のあいさつの後、つがるにしきた農協りんご部会の七戸久嗣部会長が「生産者が精魂込めて作ったりんごを盗難被害から守るため、収穫が終わるまで防犯パトロールを強化します」と決意表明しました。出動式の後、隊員らは森田地区、柏地区をパトロールし、りんご園で盗難注意を呼び掛けました。

古典文学を堪能

9月21日、松の館で市文化団体協議会（野呂隆昌会長）主催の文化講演会が開催され、市民約70人が参加し知識を深めました。

この日は、八戸短期大学客員教授の三村三千代氏が「古典文学の女性たち」という演題で講演。三村氏は7世紀から8世紀にかけて編まれた万葉集の和歌を当時の時代背景や登場人物の感情とともにわかりやすく解説し「当時の女性は男性を陰で支えるだけでなく、自分が正しいと思う道を生き抜いてきた。今の私たちもそれぞれの立場で堂々と前向きに生きていきたい」と話しました。参加者は歴史上のドラマを堪能しながら熱心に聞き入っていました。



古典文学を解説する三村氏



新しい友達と手をつないでダンス

広がるこども赤十字の輪

第17回西北五地区こども赤十字交流会が10月5日、森田体育センターで開催され、こども赤十字に加盟する西北五地区の幼稚園・保育園の園児ら約280人がゲームや踊りなどを通して交流を深めました。

開会式で西北五地区青少年赤十字指導者協議会の大沢潤蔵部会長が「今日は知らない子とも仲良く協力し合って友達をたくさんつくってください」とあいさつ。銀杏ヶ丘保育園、菰槌保育園、いなほ保育園、しげた保育園の園児らは、綱引きや玉入れ、人形を担架に乗せて2人1組で走る赤十字リレー、フォークダンスなどを一緒に楽しみ、友好と共生の輪を広げました。



つがる警察署坂本さんが弓道天皇杯で3位

つがる警察署地域課長の坂本達雄さんが9月24日、三重県伊勢神宮弓道場で開催された第62回全日本男子弓道選手権大会で3位の成績を収め、9月29日、市長へ報告に訪れました。

弓道日本一として優勝者には天皇杯が授与される本大会に県代表として坂本さんと木造菰槌の佐藤史成さんが出場。決勝で見事3位に輝いた坂本さんは「初出場ということでのびのびと実力を発揮できた。表彰式では嬉しさと天皇杯を逃した悔しさで涙が出た」と話しました。

福島市長は「全国3位はめでたい。ぜひ、つがる市の子どもたちにも指導をお願いしたい」と活躍を称えました。



全国3位の成績を収めた坂本さん（中）



表彰状を手にする藤本会長

つがる市食生活改善推進委員会が厚生労働大臣表彰

つがる市食生活改善推進委員会（藤本フミ子会長）が10月14日、旭川市で開催された全国食生活改善推進員団体連絡協議会大会で地区組織功労として厚生労働大臣表彰を受賞しました。

これは、食生活改善を積極的に推進して地区住民の健康増進に顕著な成果をあげた組織を表彰するもので、同会は長年、地区栄養教室などを通して生活習慣病予防に貢献。また、各種イベントでの地元食材を使った料理の提供や親子料理教室を通して地産地消や食育推進にも取り組んでいます。藤本会長は「これからも皆さんが健康で長生きできるよう食生活の面でサポートをしていきたい」と話していました。

亀ヶ岡公園にツツジ100本植樹

亀ヶ岡公園で9月28日、つがる市観光協会（伊藤良二会長）による植樹祭が行われ、同協会やつがるライオンズクラブの会員ら約30人がツツジの苗木約100本を植えました。

植樹祭は観光地美化事業の一環として行われているもので、伊藤会長は「桜だけでなくツツジの公園としても育てていきたい。今年は白い花の咲くツツジを準備しました」とあいさつ。福島市長は「温暖化対策としても植樹を続け、次世代にいい環境を皆さんと一緒につくっていきたい」と述べました。

その後、参加者はスコップで苗木に土を掛け、丁寧に植えていきました。



丁寧にツツジを植える参加者



デジタル教材の事例を紹介する宇治橋氏

進化するメディアを教育の現場へ

10月12日、松の館で青森県視聴覚・情報教育研究大会が開催され、県内の教職員や教育関係者などが集い、学習の場におけるメディア利用のあり方について理解を深めました。

開会式では葛西教育長が「社会の情報化の急速な発展に伴い、21世紀にふさわしい教育のあり方が求められています」とあいさつ。続いて、NHK制作局デスクの宇治橋祐之氏が「教育テレビ番組制作の現場から」と題して講演し「教育番組は見て終わりではなく、理解したこと役立てることが大切」と強調しました。参加者は、日々進化するメディアの教育現場での活用について熱心に学んでいました。